常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅡ

令和３年１１月５日(金)
その３

◇ ともに 歩ませていただく

来週の 10 日(水)は、学校の大切な行事が二つある。一つは６年生の修学旅行、二つ目は、今年度からの新たな試み【寿会・児童合同奉仕作業】である。

二つ目について、「新たな試み」とすると主体が学校で行うように見えるが、実際のところ関係各位にお願いをし、協力を得て実施する「内容の変更」である。

「米河内寿会」ならびに「常東５町寿会」からは、長年にわたって本校の環境整備、特に「校庭の草取り」にご尽力いただいている。「運動会」をはじめとする行事や各種教育活動を滞りなく行うことができているのは、このおかげだ。取組を継続的に行っていただいていることは本当にありがたく、感謝の一言に尽きる。
そして、こうした世代を超えた学校への「つながり」、地域と学校の「つながり」こそが、学校の運営基盤を強固にしていただいていると言える。

そうした中、昨年来から気にかかることが２点あった。

校庭の「草取り」については、掃除の時間に曜日を決めて児童も行っているが、根力が強力な「鬼芝」相手では、歯が立たないというのが正直なところだ。除草剤や整地マシン投入などの手は打ったが、それでも細部は人の手が必要。それを寿会の皆さんに担っていただいていたのだが、「任せっぱなし」というのが気になっていた。

二つ目は、「やってもらいっぱなし」の実状である。
学校の最優先事項は「児童の安全確保」である。つまり現在は、「新型コロナウイルス感染症対策」が学校運営の基軸となる。そのために学校は、関係諸氏と話し合いを重ねながら、中止を視野に入れた行事の見直しや方向転換、実施方法の改善を行ってきた。その中で、多くの心配をおかけしたのが、寿会をはじめとする地域である。

R2　全校児童の草取り

R2　米河内寿会の協力

R2　常東5町寿会の協力

「新型コロナウイルス感染症対策」を優先とするため、仕方ないと言えばそうかもしれないが、学校は「やっていただく」ばかりで、そのお返しができていない現状が続いている。これは、本当に心苦しい部分だ。

令和元年度までは、何度かお返しの機会があった。
学区をあげての「合同運動会」では、草取りをして整えられたグラウンドを走り回る児童の姿を見ていただけたし、学芸会（※令和２年度から学習発表会に変更）においても、児童の学びの成果を児童の姿を通して見て頂く機会もあった。さらに、学校を会場として行う敬老会では、鼓笛演奏で児童が頑張る姿を見ていただけたほか、何より「触れ合う」機会もあった。これらが全てないまま、現状に至っている。

そんな折、今年度の５月、常東５町寿会の皆さんに草取りをしていただいているときに気付いたことがあった。

寿会の皆さんが草取りをしているまさにその時、児童は登校している。
ならば、
「時間調整さえ行えば、児童は寿会の皆さんと一緒に活動ができるのではないか」。
「ともに活動することこそ、最大のお礼、そして恩返しになるのではないか」。
ということだ。

それだけではない。一緒に草取りを行えば、そのやり方を「その場で、見て学べる」。もしかすると、草取りのこつを教えてもらえるかもしれない。学びにどん欲な児童たちは、きっと「見て学んだこと」「教えてもらったこと」をやってみるに違いない。
成果が出れば、次の欲求が湧いてくるもの。その方法を友達に伝えたり、ちびっ子に教えたりするだろう。

そこで生まれたのが、【寿会・児童合同奉仕作業】である。

今回、米河内寿会の皆さんにお手伝いいただくのは、緊急事態宣言に関わる余波で延期を余儀なくされ、生えている草が少ない状況から「窓ふき」となってしまった。けれども重要なのは「児童が、地域の方とともに行う」ことである。

その中で、児童の思いは【ともに歩ませていただく】に変化していくのだ。
変化する時が今なのか、10 年後なのか、20 年後なのか、数十年後なのかはわからない。けれども時を経て、地域に関わる時に【本当の恩返し】ができるのだ。